

| | |
|------------------|---|
| Title | 巻頭言 大学創立 20 周年記念号に寄せて |
| Author(s) | 金井, 信一郎 |
| Citation | 聖学院大学論叢, 21(1): 1-2 |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2525 |
| Rights | |

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〈巻頭言〉

大学創立20周年記念号に寄せて

初代学長 金 井 信一郎

大学創立20周年まことにおめでとうございます。

聖学院大学論叢・創立20周年記念号の発刊に当たり、初代学長として巻頭言を書くようにとのお声をおかけいただき嬉しく思います。年老いてしまいましたが、この際、大学創立当時の記憶をたどり、2,3メッセージをお伝えしたいと思います。

まず、聖学院大学創立にあたっては、現理事長でいらっしゃる大木英夫先生たちと次のようなことを話し合いました。それは、これまでの多くのキリスト教大学とただ並ぶだけの大学では意味がない。新しい意味のあるキリスト教大学を創設しようということでした。そこでまず考えたことは、聖学院大学の基本理念をつくるということでした。そのために、大木先生を委員長とする、「理念検討委員会」を立ち上げました。委員会では、近藤勝彦先生が軸になり、幾人もの先生たちと議論を重ねました。その結果、1年の時間をかけ、「聖学院大学の理念(10か条)」をつくりあげることができました。それらの中で、中心に据えたことは「霊的に成熟した人間をつくる」ということです。このことは、第1条、3条、8条、10条にそれぞれ盛り込みました。

学長就任については大木先生からお声をかけていただきました。しかし、器にあらざと逡巡し、日曜学校時分からお世話になっていた島村亀鶴先生や当時の理事長でいらっしゃる小田信人先生などにご相談したところ、ありがたいご助言をいただき、神様の思し召しとお引き受けした次第です。早速、常任理事というポストを設けていただき、大学作りに没頭いたしました。日本私学振興財団の理事長・故石川忠雄先生がそれらの開学準備を支えてくださいました。それでも、人材を集めることは大変で、地方の大学から教員を招き、「せっかく育てたのに」とお叱りをいただいたこともございました。

これからの聖学院大学に望むことは、建学の精神を堅持し、本物のキリスト教大学になっていただきたいということです。言い換えれば、「聖学院大学の理念」を守り続けていただきたいということです。そういう意味で、今日、全学礼拝や、教授会、各学科会および委員会などでの祈りがしっかり守られ、チャプレン制度が拡充され、

キリスト教関係教科が充実されつつあるとうかがっており、大変喜ばしいことと感じております。それらの取り組みの中に、今後の発展が期待されます。

最後になりますが、私は「心の壁を破るもの」という論文（「諸君は孫弟子」聖学院ゼネラルサービス刊 1993年）の中で、第1回アジア産業伝道協議会のためにマニラへ赴いた時の体験にふれました。ゲストスピーカーとしての説教の中で、戦争謝罪と共に、「自分が教育者としてキリストを信じて世界の平和のために働く若者を育てたい」というお話をいたしました。もうずいぶん昔のことですが、その神は、今も私たちの心に働きかけてくださっていることを覚えない。そして、聖学院大学学則第2条に掲げられている「本学の教育の目的のひとつは、平和に寄与する人間を作ること」であることを確認したいのです。

*この原稿は、2008年8月10日（日曜日）に池袋西教会に金井先生をお訪ねし、鵜沼裕子図書館長と助川征雄が口述筆記させていただいたものです。